

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2891100071		
法人名	株式会社 ケア21		
事業所名	グループホーム たのしい家中山寺		
所在地	兵庫県宝塚市今里町1-15		
自己評価作成日	平成24年5月14日	評価結果市町村受理日	平成24年9月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokouhyou.jp/kai gosip/infomationPublic.do?JCD=2891100071&SCD=320&PCD=28
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフ・デザイン研究所		
所在地	兵庫県神戸市長田区菟乃町2-2-14		
訪問調査日	平成24年6月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

散歩や買い物の際に地域の方々との交流を大事にしています。地域の行事の参加やボランティアにもきていただいたり、レクリエーションや菜園など楽しみある暮らしをしていただけるようにしています。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

①地域交流 事業所開設当初よりの近隣とのつながりがより深まり、民生委員等の協力により地域と共生する事業所として存在している。また、地域の社会資源として、認知症ケアや介護の知識を還元すべく取組んでいる。②人財育成への取組み 法人本部主導による人財育成制度が整備され事業運営に不可欠な項目の研修が計画的・意図的に継続実施されている。また、認知症高齢者への尊厳に注力し、「不適切なケア」がなされていないかホーム内会議において事例検討している。③暮らしを楽しむ 食事において、メニュー・買い物・調理等を協働し、生きがい・存在意義を共感している。また、月1回のイベント食、お花見やバーベキュー会での外食も楽しみの一つとなっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者と買い物や散歩等地域を生活の場とするよう心がけています。職員と共同で理念を作成することを目標としており、現在の課題となっている	法人理念の中からグループホーム運営に直結する項目をピックアップし実践している。現在、地域密着型サービス提供事業所としての理念・指針の策定を職員とともに検討している。	事業所としての理念・指針を職員総がかりで策定することは、一体感の醸成にもなりません。是非実現される事を期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に買い物は近くのスーパーを利用したり、散歩の際には近隣の住民に対して挨拶する。地域からのボランティアによる支援も受けいれている。又、民生委員の方より、地域の行事の情報を頂き、参加している	近隣の方々との散歩時での触れ合い、買い物先での会話等良好な関係を築いている。民生委員よりの情報により保育園や人権センターにおける行事や催しに参加している。	今後益々と、地域の方が気軽に立ち寄って頂けるような企画の実施を助産されるとともに、地域の社会資源としての取り組みの継続に期待をします。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族様の知り合いの方で、地域の在宅介護をされている方などで認知症の対応に悩んでおられる方の話を聞き、事業所での成功例や失敗談また認知症ケアに必要な声のかけ方などの話をさせて頂いています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	様々な意見やアドバイス、情報提供等を頂いている。又、前回の評価結果の報告、改善目標等の意見・アドバイスをとり入れながらサービス向上にとりくんでいる。	会議出席者の方々から入居者の生活を充実したもとするための様々なアイデアやアドバイスをもらっている。いただいた情報は申し送り等で全職員が共有し支援に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には、市の職員に出席して頂き、施設見学や現状報告を行い、アドバイスや意見を頂いている。こちらからも質問や相談をして色々教えて頂き、協力関係を築くようにしています。	市担当者からは、各回の運営推進会議でホーム運営にかかる多くの意見・アドバイスを受けている。また、介護保険に関する項目(今回の改正等)についても質問・相談等行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に研修を行い、職員全員で確認する。玄関とフロア二重施錠となっていることに対し、入居者の入れ替わり等でなかなか実施できていないが、時間帯でフロア部分開錠を目指している	入職時及び継続研修として研修(法人本部研修とホーム内研修)を行っている。安全面を優先し、玄関と各フロアを施錠している。	フロア出入口の解錠について、数種の手法を職員との協同で計画し、試行する過程で定着化していかれては如何でしょうか。
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	気がつかずに行っている点がないか、その都度確認する。職員の気持ちを察する為にも、日々の様子をみていき、面談を行うようにしている	「不適切なケア」への相互確認(会議の場での事例検討)、並びに虐待と職員のメンタルとの相関関係に着目し職員のそれが良好になるよう留意している。	

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	活用事例はないが、法人全体で研修を行っている。事業所としては研修は行っていないが、入居者の方の権利を学ぶ為にも是非事業所内研修を行いたい	権利擁護制度にかかる研修は、法人本部において実施されている(年1回)。	懸案の権利擁護制度全般についての事業所内研修を、地域包括支援センターの職員にお願いして実施されては如何でしょうか。
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	誤りや誤解の無いよう、わかりやすく説明を行う。管理者だけでなく、ケアマネも参加してもらうようにしている。必要に応じ繰り返し説明を行い納得してもらい契約を行うようにしている	契約は、管理者、計画作成担当者が行っており、介護に係る重要事項については、わかり易く丁寧に説明している。重度化した場合の対応についても指針を用いて説明し共有している。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	目安箱を設置する。ご家族様や入居者様が職員に何でも言いやすい雰囲気をつくる。又、毎月様子報告や行事予定等の個別のお便りと、通信を送付し報告している。こまめな報告を行い、意見等言いやすいよう関係を日頃より築くようにしている。	入居者とは日頃から「決めつけ」を排除し、常に「自己決定」を促し、家族へは毎月の「お便り」により入居者の現況やホームの状況をこまかく発信し意見表出しやすい関係を築いている。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は定期的にミーティングに参加し、職員からの意見・提案等を止めずに上司に報告している。法人全体でも従業員アンケートを行ったり、個人面談を行っている。	月例でのフロア会議、ホーム全体での会議において職員よりの意見・提案を吸い上げている。また、法人本部も年に1度就業への満足度調査と提案の機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	「誰のび制度」を導入。人事考課をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社時研修等を研修を実施。研修等時も給料が発生している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	参加を勧めて、サービスの向上に努めている。		

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様の話を傾聴し、職員間で情報を共有している。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様からの情報をあらかじめもらい、話は傾聴する。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要であるならばベッドや車椅子等の福祉用具、他事業所の訪問理美容や訪問マッサージなど紹介し利用できるようにする		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で出来ることを一緒にしていくようにし、共に暮らしていくような援助とする		
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	こまめに状況を報告している。行事への参加をお願いする。家族様もご友人と音楽会や紙芝居などをしてくれている		
20	(11) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人様の昔からの信頼あるかかりつけ医にかかる。入居前から通われていた教会にご友人と出かける。外出できない方は教会の神父が来所されていた。	入居前から利用していたスーパーへの買い物や寺院・教会へ出かけている。また、前職場の知人や近所の方が訪ねてこられ楽しい時間を過ごしている。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テーブルの配置や座席等、会話がご入居者様同士でスムーズにいくように職員が考慮している。		

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に入居された方の場合、施設に行く際には面会し現在の暮らしぶりを伺う		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	(12) ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前はアセスメントにて、ご本人様、ご家族様に生活歴を伺い把握し、意向確認する。入居されてからは、日々の些細な会話や行動を記録し、想いを把握していけるようにしている。	入居者個々人との日々の係わりの中で(会話や行動より)、本人の「今」を記録し変化を漏らすことなく把握し思いや意向を日常生活に反映できるように取り組んでいる。	
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のみならず、継続してご家族様から詳しくきいている。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りや、申し送りノート、カンファレンス等で伝達し、職員同士で共有している。		
26	(13) ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護記録に日々の様子を細かく記録し、カンファレンス等で気づいた事を話し合い、又家族様含めて支援の方向性を決め、ケアプランに落している。	関係者参加によるカンファレンス(日々の行動と介護記録等により検討)及び家族からのアセスメント並びにモニタリングに基づき介護計画を作成している。	介護計画の実効性を精度高く検証する上でも職員(介護従事者)によるモニタリング実施を検討されては如何でしょうか。
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	出来れば細かくご本人様の言葉や行動等含めかわりの記録をなるべく詳しく記録するようにしている。		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出の時、タクシーや福祉用具等会社内外で出来るだけ使用するようにしている。		

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に民生委員出席をお願いして地域の情報を得ている		
30	(14) ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時、今までのかかりつけ医か施設の提携医かを選択してもらうようにしている 定期往診日以外でも、状態に合わせて電話での報告、指示や相談、往診を受けている	主治医(内科)については、本人・家族の希望にそっている。歯科・リハビリについても希望により訪問してもらっている。他科の受診についても家族と協働している。	
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	電話にての報告、相談、指示受けたり、訪問看護前には情報を書面にて伝え、適切な処置等を受けられるようにしている		
32	(15) ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院に向いて担当医に情報提供(サマリー)をだしたり、入退院時逆互いのサマリーを交換している 病院との関係づくりの為に、病院主催の地域交流会に参加している	入院中は頻度上げて面会に出向き、状態確認と早期退院に向け病院と連携をはかっている。病院主催の地域交流会(事例発表会)に参加し密な関係づくりに努めている。	
33	(16) ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	指針は入居時の契約時に確認する。重度化した場合にはその常家族様や医師、看護師に確認することとなっている	入居時に確認している方針に基づき管理者が家族・医療従事者を含めて支援できるようすすめている。全職員が「看取り」について理解・共有できることがこれからの課題ととらえている。	
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修を行って対応方法を学ぶようにしている		
35	(17) ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の年2回の定期消防訓練を実施している	日中帯での訓練を実施しており、夜間帯想定での火災のみならず水害での訓練も計画している。災害時の避難場所は地域の協力により設定できている。備蓄等も確保している。	

自己	者 第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の生活スタイルを把握し、訪室時はドアをノック、声掛けをおこなっている	入居者個々人の「生活スタイル(好ましい暮らし方、生活歴)」を尊重した支援を実践している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	状態を把握・理解しせかさずゆっくり話を傾聴し、自己決定できるようにしています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	特にお風呂や食事の決めごとなく、利用者のペースに合わせていくようにしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝利用者と一緒に服を選んでいる。外出する時はお化粧等声かけ見守り等をおこなうようにしている		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	下ごしらえや、1人ひとり配膳、下膳等洗い物などできる事はしてもらう。	調理、下ごしらえ、配膳・下膳等入居者のできることを協働している。イベント食(手作りおやつの日、お好み焼きパーティー等)や外食も楽しみにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量を把握し、摂取しにくい人はキザミやミキサーやゼリーにしたり工夫する。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを声かけし促していくようにする		

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20) ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表をつけて1日のその人の排泄の流れをつかむ 足の弱い人などはつかまり立ちしてできるよう介助していく	入居者個々人の排泄パターンとそのサインを把握し、羞恥心に配慮した声掛けを行っている。下肢筋力維持のための生活リハビリや動線を工夫しトイレでの排泄を支援している。	
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操や散歩等体を動かす機会を設け、水分や繊維質の物を摂取するようにする		
45	(21) ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日を決めず、できるだけ本人の希望に沿っている しょうぶ湯やゆず湯など入浴でも季節を感じていただけるようにしている	本人の希望、その日の状態に合わせた入浴を支援している。平均して週2.5回の入浴実施となっている。また、季節湯(柚子湯・菖蒲湯等)や家族との外湯(温泉等)も楽しんでいる。	
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中極力活動、適度に運動してもらう シーツの清潔保持、温度等に気をつける		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	施設連携医からの説明や地域のかかりつけ医からの処方箋や、ご家族様からの情報等にて職員が理解できるように申し送りノート等を活用してます 日々の変化や状態は記録につけ、これも申し送りノートにて職員全員がわかるようにしています		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	菜園の水やり、食事作りのお手伝い、洗濯物を干す、たたむ等個々ができることをやってもらうようにしている		
49	(22) ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	花壇の水やりや庭に出たり、近所のスーパーや公園に散歩等一緒に行っている。家族様やご友人との外出も行われている	日常の散歩や買い物等への外出の他、季節毎のイベント(お花見、花火大会、バーベキュー会等)での外出、家族との外出も楽しんでいる。	

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人管理が可能な方は職員が確認しながらですが、ご自分でお財布をもたれています。他の方はご家族よりお金をお預かりし、買い物時は職員と一緒に行き希望に沿えるようにしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人より希望あれば状態により、手紙を送ったり電話を取り次ぐようにしています。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	良い表情のお顔の写真や季節に合わせた創作物や塗り絵等壁に貼っています	リビングの大きな窓から近隣の造園を眺めることができ、適度な採光により開放的となっている。壁面には季節毎の手作り作品を掲示し生活感を演出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓のみでなく、テレビ前にソファを置き、個々にくつろげるようにしています		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時だけでなく、入居後もご家族に情報を伝え、使い慣れた物や写真等ご持参いただき、居室に置いていただくようにしています。又、身体状態の変化に合わせて家族様とも相談しながら配置や布団からベッドへの変更等対応しています	本人好みのテレビ、家具等生活関連品に限らず、仏壇や書籍など本人の「心」を安らかにする物も持ち込んでいる。安全にも配慮し、介護用品等の支援も行っている。	今後も、利用者の状態の変化に合わせ、家族と相談しながら居心地の良い居室作りを継続願います。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりやマットを置いて安全に生活できるようにしています		